

令和7年度 能登町立鶴川小学校
学校評価だより（中間）
令和7年10月発行

日頃よりご支援・ご声援を賜り心より感謝申し上げます。この学校評価だよりでは、保護者・児童・職員アンケート結果（満足度指標）だけでなく、成果指標や努力指標を取り入れ、より客観性を持たせ、特に達成度判断基準を設けることで、本校の取組が目標に達しているかどうかも明確にしました。学校評価の結果をもとに、今後もよりよい学校生活の充実に向けて、保護者・地域の皆様と共に取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和7年10月7日 能登町立鶴川小学校長 富水 知子

令和7年度

第1回 学校評価（7月 中間評価）

能登町立鶴川小学校

重点 目標	自己評価						備考	
	評価項目	具体的取組	評価指標	評価：達成度判断基準		取組の状況・結果		達成状況
確かな学力	総合的な学 力の向上	・学力調査の結果を分析して 定着していない内容を授業 や朝学習で補強する。 ・授業での学んだ知識や言語 力を活用して思考、判断し表 現する活動場面の設定。 ・計算、漢字コンテストの取組	【成果指標】 各種・学力調査の 結果が県及び国の 平均を上回ってい る。	全国学力学習状況調査・県基礎学力調 査の結果が県平均・町学力調査の結果 が国や県平均を上回っている教科が全 体の		3～6年の学力調査は合わせて12 教科あり、 全国や県の平均を上回った教科は 6 教科だっ た。記述式の問題で、適切に表現したり、条件に 合わせて書いたりする力に課題がある。また、基 礎基本の問題を確実にできることが必要である。 帯タイムや家庭学習、漢字計算コンテスト等を活 用して定着させていく。	B	主担当:大谷 評価方法: 学力調査 4月・12月 CRT 評価実施時期: 8月、1月
	A:	60%以上						
B:	50%以上							
C:	40%以上							
D:	40%未満							
学力向上プ ランの推進	・つまずきを想定し手立てを考 える。 ・目的のある交流の場を設定 する。 ・課題と整合したまとめを書く。	【満足度指標】 授業で自分で学び 方を選び、目的の ある交流すること で、児童が「わかっ た」「できた」と感じ ている。	職員アンケート「授業では1時間完結授 業」に努めている。」という項目で肯定的 な回答をした職員の割合が		今年度は、児童のつまずきを想定し、手立てを 考えて、全員が自分の考えをもてるように取り組 んでいる。また、目的のある交流によって1時間 の最後にはみんなが分かったと感じることができ る授業を目指している。中間は85.7%であつた が、継続して取り組んでいく。	B	主担当:大谷 評価方法: 職員アンケート 評価実施時期: 7月、1月	
A:	90%以上							
B:	80%以上							
C:	70%以上							
D:	70%未満							
豊かな心	明るい挨拶 があふれる 学校づくり	・縦割り班での「あいさつ運動」 を継続し、よい挨拶をしている 児童を全体に紹介すること で、挨拶の習慣の定着を図 る。	【満足度指標】 児童がすすんで挨拶 する習慣が身に 付いている。	児童アンケートで「いつも大きな声で気 持ちのよいあいさつをしている。」という項 目で肯定的な回答をした児童の割合が		昨年度の最終結果の95.3%とポイントはほぼ変 わらず92.1%となった。昨年度2 学期から縦割り 班でのあいさつ運動の回数を減らしたが、教室 や職員室でのあいさつに対する職員の声掛け、 代表委員会による新しい取組等が日々のあいさ つに対するプラスの評価につながったと思える。	A	主担当:松橋 評価方法: 児童アンケート 評価実施時期: 7月、1月
	A:	児童の90%以上						
B:	児童の80%以上							
C:	児童の70%以上							
D:	児童の70%未満							
良好な人間 関係の構築	・勉強や行事等で、各自に目 標を持たせ、粘り強く取り組 むようにする。 ・相手の気持ちを考えた思い やりの心を育む取組をしてい く。	【満足度指標】 児童が学校生活の 中で友達と仲良く勉 強したり遊んだりし ていると感じてい る。	児童アンケートで「友達と一緒に遊んだり 、活動したりするのは楽しい。」という項 目で肯定的な回答をした児童の割合が		掃除、運動会、うかわっ子ふれあいタイム等縦 割り班で行う活動が多く、異学年を通して仲良く 遊ぶ姿がある。また、同学年や他学年の児童に 向けて「よいところ見つけ」も行った。 今後も縦割り活動やいいところ見つけを通して 児童同士の良好な関係作りを進めていく。	A	主担当:道端 評価方法: 児童アンケート 評価実施時期: 7月、1月	
A:	児童の90%以上							
B:	児童の80%以上							
C:	児童の70%以上							
D:	児童の60%以上							
健やかな体	体力の向上	・年間を通してスポチャレいし かわの種目に取り組む。 ・体育の時間に、児童の体力 が高まるよう、運動意欲と技 能の向上、運動時間の確保 に努める。 ・マラソン大会に向けて、持久 力をつける取組を計画的に 取り入れていく。	【成果指標】 体力テストのシャ トルランで34 回以上 走ることができる児 童(3～6年)の割合 を90 パーセント以 上をめざす。	体力テストの「シャトルラン」で34 回以上 走っている児童3～6年)の割合が		6月に実施したうかわっ子オリンピックでは、23人中16人 がシャトルラン34回を達成していた。(4人未実施)達成判断 基準をシャトルラン34回にした理由は、現6年生男子の昨年 度の平均を超えてほしいからである。6年生男子は、県の平 均指数を下回っている項目が多く、基本的な体力の向上を 目指している。今後も、一校一プランに記載した通り、職員も 手間を惜まず児童を休み時間に遊びに誘っていく。そし て、体を日常的に動かしていくきっかけをつくってきたい。 また、1学期に取り組めていなかったスポチャレへの継続的な 取組を呼びかけていきたい。	B	主担当:梅木 評価方法: 体力テスト「シャ トルラン」 評価実施時期: 6月、1月
	A:	90%以上						
B:	70%以上							
C:	60%以上							
D:	60%未満							
健康教育の 推進	・毎月「元気ハッピー貯金」を 行い、規則正しい生活習慣を 身につけさせる。 ・早寝・早起きの大切さ、メデ ィアの使用時間等について指 導する。 ・朝ごはんの大切さや食事の マナー等の食育を行う。	【満足度指標】 学校での指導や家 庭での働きかけの 結果、子ども達の生 活習慣が向上して いる。	保護者アンケートの「子どもは、ゲームや インターネットの約束を守っている」という 項目に肯定的に回答した保護者が		昨年度最終では肯定的な評価が73.8%だった が、ほぼ変わらずの73%だった。児童の生活状 況や実態を踏まえた学級や個人での保健指導 を行い、生活習慣の定着を図っていきたい。また 、非行被害防止講座を踏まえて、元気ハッピ ー貯金や家庭でのメディアルールの作成を2 学 期以降も継続して行い、家庭との連携を図って いく。	C	主担当:藤澤 評価方法: 保護者アンケ ート 評価実施時期: 7月、1月	
A:	90%以上							
B:	80%以上							
C:	70%以上							
D:	70%未満							
安全・安心な学校	安心できる 学校	・児童理解の会での共通理解 や共通指導を徹底し、児童 のよりよい人間関係の構築に 努める。 ・学習面において、個に応じた 指導を行う。 ・子どもの自己肯定感を高める 取組をしている。	【満足度指標】 自分のよいところや がんばっているところ に気付き、自己肯 定感が高まっている 。	児童アンケートで「先生は、自分のよいところ やがんばっているところをほめてくれる。」をい う項目に肯定的に回答した児童が		アンケートでは「あてはまる」が76.3%、「だいたいあて はまる」が21.1%と、肯定的評価が高かった。引き続 き、授業やその他の活動における頑張りができている こと認め、児童に伝えていくとともに、「よいところ見つけ」 の取組も継続して行う。また、いじめアンケート等の結 果だけでなく、生徒指導に関する情報をスピーディに 全体共有し、児童理解を深めるとともに、効果的な指 導や支援を検討し、共通実践を図っていく。	A	主担当:鰐淵 評価方法: 児童アンケート 評価実施時期: 7月、1月
	A:	90%以上						
B:	80%以上							
C:	70%以上							
D:	70%未満							
安全な学校	・避難訓練を通して非常災害 発生時の避難行動の仕方を 身につけさせる。 ・保護者が連絡、相談したこと に対して、誠意を持って対応 している。 ・「報告・連絡・相談」の徹底を 図り、迅速に対応していく。	【満足度指標】 保護者が学校の情 報について、情報 を迅速に発信して いると感じている。	保護者アンケートで「学校は、緊急メール やお知らせなどで、迅速に情報を発信し ている。」に対し、肯定的な回答をした保 護者の割合が、		保護者アンケートでの肯定的評価が100%で あつた。今年度は、保護者連絡サービスアプリ 「テトル」の導入があり、1学期末までに保護者の 登録を完了した。これまで、不審者情報などの安全 情報や学校行事に関することを、テトルからの おたより発信を続けている。緊急時での連絡もテ トルを通して行う予定でテストメールでの確認をし た。今後も様々な情報を確実に保護者に伝える ようにする。	A	主担当:高山 評価方法: 保護者アンケ ート 評価実施時期: 7月、1月	
A:	90%以上							
B:	80%以上							
C:	70%以上							
D:	70%未満							
家庭地域との連携	地域の教育 力の活用	・地域人材を活用し、地域の 特色を生かした授業実践を 行う。	【満足度指標】 生活科、総合的な学 習、道徳などの授業 で、地域の人材を活 用する授業を行っ ている。	職員アンケート「地域の素材をもとに学 習活動を行ったり、地域人材を活用し たりして「ふるさと教育」を積極的に展開 している。」に対し、肯定的な回答をした職 員の割合が、		職員アンケートで肯定的な回答は85.7%であ つた。2年生は地域探検で日の出大敷を見学、3・ 4年生はミニ水族館を作るための磯観察、4年生 はヒラメの飼育と放流など、地域の海と人材を活 用して学習活動を行った。また、社会でも地域の 祭りについてゲストティーチャーを招いて教えて いただいた。5・6年生も祭りについて調べており 、今後は地域の人材にインタビューするなど工夫し ていく予定である。	B	主担当:大谷 評価方法: 職員アンケート 評価実施時期: 7月、1月
	A:	90%以上						
B:	80%以上							
C:	70%以上							
D:	70%未満							
学校情報の 積極的な公 開と家庭・地 域への適切 な説明	・学校だよりや学級だよりの発 行、ホームページの充実によ り、保護者が学校経営方針 や教育内容を理解できるよう に努める。	【満足度指標】 保護者が学校の教 育方針や児童の様 子が伝わっている と感じている。	保護者アンケートで「学校は、学校だより、ホ ームページなどを通じて、学校での教育活動 の様子を積極的に伝えている。」に対し、肯定 的な回答をした保護者の割合が、		保護者アンケートでは100%の肯定的な評価を いただいた。月一回の学校便り発行や週3回以 上のホームページ更新を行ってきた。また、学年 だよりにおいても、月一回以上は発行していた。 教職員アンケートの関連する項目においても肯 定的な評価が100%であつた。今後もタイムリー な情報発信を継続していく。	A	主担当:高山 評価方法: 保護者アンケ ート 評価実施時期: 7月、1月	
A:	90%以上							
B:	80%以上							
C:	70%以上							
D:	70%未満							
組織力向上と働き方改革	組織力向上	・校内研修や授業研究などを 通して授業力の向上を図っ ている。 ・校務分掌や得意分野におい て意欲的に取り組んでいる。	【満足度指標】 校務分掌において 意欲的に取り組ん でいる。	職員アンケート「校務分掌や得意分野に おいて意欲的に取り組んでいる。」に対 し、肯定的な回答をした職員の割合が、		アンケート結果では、87.5%であつた。意欲的という目標に 対する評価が難しいが、分掌担当者から積極的に声がかかる ことが多く、後手に回っている印象は受けない。また、提案に 対する意見も出ており、よりよくしようという思いがある。担当 者が負担に感じている面があれば、共有して解決へと向かい たい。今後もそれぞれの職員の個性が生きようような声掛け を行い、児童の心身の安全、学力の向上のために、組織的に動 いていく。	B	主担当:梅木 評価方法: 職員アンケート 実施回数 評価実施時期: 7月、1月
	A:	90%以上						
B:	80%以上							
C:	70%以上							
D:	70%未満							
働き方改革 の推進	・校務分掌の平準化と担当の 明確化を図り、意識改革を推 進する。 ・会議を事前に設定された時 刻に終了するよう努める。	【成果指標】 教職員が働き方改 革を意識して効率 的に業務を行い、 時間外勤務時間を 削減している。	月の平均退勤時刻が19時以前の職員 の割合が、		月の平均退勤時刻19時以前を達成した職員の 割合において、4～6月の平均値が59.3%であ つた。少人数学校における校務分掌の重複した 業務が原因と考えられる。 学校の取組の精選、業務の平準化、退勤時刻 を意識した働き方を進めていく必要がある。	D	主担当:高山 評価方法: 勤務時間記録 表、職員アンケ ート 評価実施時期: 7月、1月	
A:	90%以上							
B:	80%以上							
C:	70%以上							
D:	70%未満							

